

ゼロカーボン研究会の進め方

事務局

2021.6.29

ゼロカーボン社会をめざす意義・動向

- 気候変動は、世界中の人々や生態系等に影響を与えている
- 地球温暖化を1.5℃に抑制するためにはCO₂排出量が2030年までに45%削減され、**2050年頃には正味ゼロ**に達する必要がある



- 2050年二酸化炭素排出実質ゼロを各主体が表明

国 (2020.10)

岡山県 (2020.7)

岡山連携中枢都市圏※、倉敷市、奈義町 (2021.2~6)

※岡山市、津山市、玉野市、総社市、備前市、瀬戸内市、赤磐市、真庭市、和気町、早島町、久米南町、美咲町、吉備中央町

ゼロカーボン研究会の目的

ゼロカーボン社会の実現に向け、
出席者(産学官)が連携して取り組める対策を検討する

現状の課題や解決策などのアイデアについて意見交換する場

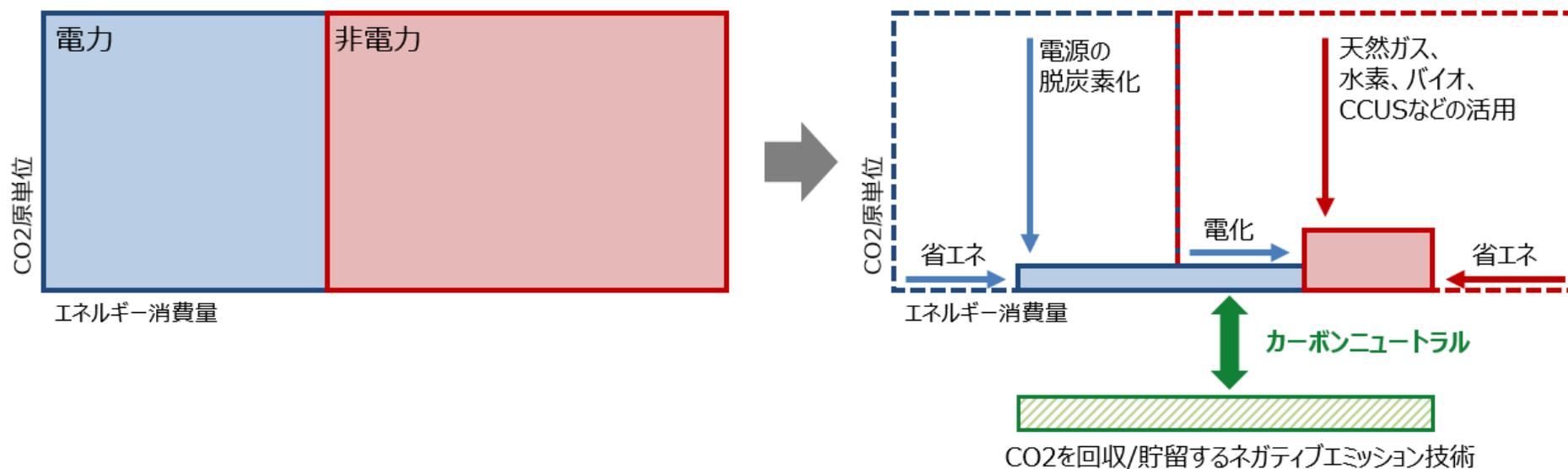
 対策の立案・実施に展開することを期待

- 本年度～（数年間）
- 年間複数回開催
- 産：民間企業（各回テーマに関連する企業へ参加依頼）
学：岡山大学
官：岡山連携中枢都市圏、倉敷市

など

ゼロカーボン研究会で扱うテーマ

- 省エネ、電源の脱炭素化、電気自動車、蓄電、地域新電力等
- 出席者が実施、推進できる「**対策**」の検討につながるテーマ



(出典) 経済産業省

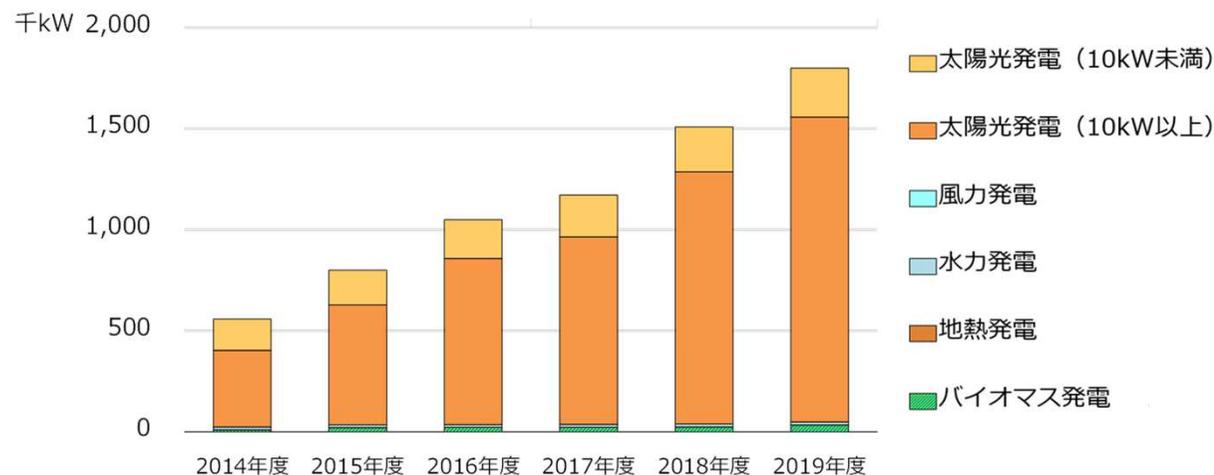
電源の脱炭素化

- 再エネ・水素・アンモニア等の活用
- 発電電力量構成における再エネ比率
2019年度18% ⇒ 2050年約50~60%

※2019年度値はエネルギー需給実績（確報）、水力796億kWh・太陽光690億kWh・バイオマス261億kWh・風力76億kWh・地熱28億kWh
※2050年値は「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」における参考値

- 岡山県の再エネ導入容量：
180万kW（98%が太陽光）

※固定価格買取制度資料による2019年度値の集計であり、上記「発電電力量構成」とは対応しない。
※全国では、再エネ導入容量6,316万kWのうち88%を太陽光が占める。
※再エネ発電電力量（推計値）は以下のとおり。
岡山県： 26億kWh（うち88%が太陽光）
全国： 1,088億kWh（うち65%が太陽光）



(参考) 自治体排出量カルテ

本日のテーマ・方向性

《テーマ》

太陽光発電導入拡大に向けた取組について

方向性

太陽光発電導入拡大のため、
どのようなサービスがあり、または、今後考えられ、
サービス普及のためにどうすればよいかを意見交換する

本日の予定

- 各事業者さまによるサービス内容等の説明 ⇒ 意見交換

NTT・TCリース株式会社さま

《太陽光発電設備導入のためのリース・ファイナンスの活用について》

中国電力株式会社さま

《脱炭素社会に向けた選択肢としての太陽光PPA》

おひさまエナジーステーション株式会社さま

《脱炭素経営を推進するための電源開発～ゼロカーボンに向けて～》

- ✓ 今後の研究会に活かすため、最後にアンケートを予定しておりますので、ご協力をお願いいたします。